

PRO-LIFE

胎児を守る運動

中絶に反対する運動

2000年2月 No.112

人はすべての真実を受け入れることができるとは？

暴力的行為には、神が愛情もって作られた人間の命を破壊することも含まれる。それには

小さな人間が発育して生まれる以前に科学的あるいは外科的処置で命を破壊してしまうこと、それから病気や障害を持って生まれてきた赤ん坊を生きる価値がないと決めつけて命を奪ってしまうこと、昏睡状態の患者を飢え死にさせること、あるいは自らの命を絶えさせようと薬を渡すことなどがあげられる。これらのような暴力的行為は常に神への罪とみなされる。

しかし、残念なことに、現代の社会では、これらの行為は暴力でも罪でもないと考えられている。多くの場合、このような行動は「情け深い行為」とみなされ、人の苦悩や苦痛を和らげる

のに役立ついると考えられている。

子どもを作る作らないは、すべて人の責任においてなされることであって、性的能力は単に身体の物理的機能であり、生殖活動とは合法的にも切り放してもいいものであると信じる人もいる。責任のない快楽は道徳的にも受け入れられる。これは第一の偽りである。

私たちの出産能力が神からの贈り物であるという事実は人々の意識から薄れてきている。代わりに子どもは「欲しくないのに」というのが最近流行の定義になっているようである。この場合、明らかに男女のカップルは、パス・コントロールをすることが「慈悲」であると信じている。自分たちの行為をある第三者に対する責任とはつきり切り放しているつもりになっているからである。この「個人的慈悲」(自己中心的慈悲)には神の贈り物への尊敬の念がまったく欠けている。

子どもたちが必要とされるのは、「計画」されたときだけであ

る。だからカップルやシングル・マザーから「計画外」の妊娠を取り去ることは慈悲行為である。これは偽りの二つ目になる。

これは母親、家族あるいはポーフレンドの健康だけを考慮した「個人的慈悲」である。

これ以上生きる喜びを感じられない者を殺すのは慈悲深いことである。うそ三つ目である。

繰り返しになるが、「個人的慈悲」は、犠牲になる者の精神的健康よりも、自分たちのお金や不都合や犠牲を考慮した考えからくるものである。個人的感情は、回りの人々に対して抱く感情をも支配する。

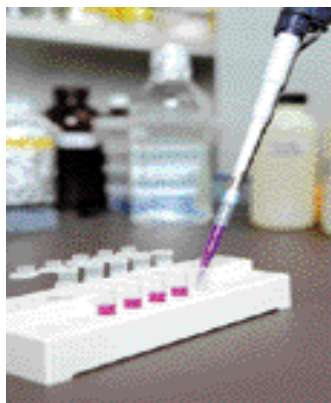
自分へのみ責任を負えばよいと信じている人には、これらの嘘は全ての法の仕組みや社会全体がそれぞれの将来を計画する

際の基本となる。それらは苦悩やわがままや究極的崩壊に満ちた運命に導くものである。

ここで問題なのは、権利とか法律とか文化的期待などというものではない。重要なのは、人が真実をそのまま受け入れることができるかどうかなのである。死という文化に本質的に存在する偽りへの適切な回答は、ヨハネによる福音書 8:47に書いてある「神からの者は神のみ言葉を聞くが、あなたたちは神からの者ではないから、私のことばを聞こうとしない。」

喜びを感じようではないか！神への愛は一人一人に本当の慈悲のみをもたらしてくれるという嬉しい話題を広げようではないか。

私たちの道具は信仰、希望そして愛である。これらを用いれば、中絶反対のかかげる使命は必ず達成できるのである。これが真実なのである。



バース・コントロールとピル

一体何だろう？

バース・コントロール用のピルは、経口避妊薬として知られている。毎日使用する飲み薬である。セックスをしても、女性が妊娠しないように働くものである。

ピルの成分は何だろうか？

ピルにはいろいろな種類がある。プロゲステロンだけのものもあれば、プロゲステロンとエストロゲンが混合されたものもある。

ピルの成分であるプロゲステロンとエストロゲンは人工ホルモンであり、女性の身体が何ヶ月も先まで妊娠していると思わせる作用がある。女性の身体は生命維持に必要なすべての器官は、ピルを常用することで何らかの影響を受ける。さらに強力なステロイドも含まれており、女性の体内にいつまでも残ることになる。ピルの人工ホルモンは、女性の体内に通常のプロゲステロンとエストロゲンの生産を抑制することになる。

この強力なステロイドは健康にとつてよくないし、ピル使用には常に副作用が付きまとう。

ピルはどのように作用するのか？

バース・コントロールのためピルは、以下の3つのうちのどれかで働く：

1. 排卵（卵巣から卵子が離れること）を抑制する。
2. 子宮頸管内の粘液を変化させ、精子が子宮頸管にたどり着いても中へは入れさせない。
3. 子宮の内側に炎症を起こさせて、右記のいずれもできず女性が妊娠した場合、まだ小さな小さな男の子あるいは女の子が実際に子宮の内側に付着する前に死亡させる。

つまり、3番目の状態が起きた場合、女性の身体は小さな赤ん坊を拒絶し、赤ん坊は死ぬのである。これを科学的中絶と呼ぶ。

中絶は小さな人間の命、受精の瞬間から始まっていた命を奪う直接的殺人である。

ピルは安全なのだろうか？

とんでもない！現在ピルを使用していないなら、これからも使っていない。今ピルを飲んでいないのなら、ピルと一緒に入っている患者用説明書を取りだしてすぐに読んでみよう。

以下に副作用のいくつかをあげてみる：

1. 細菌性感染（ピルは免疫力を弱める。）
2. ピルは免疫力を弱めるため、エイズ・ウイルス（HIV）に感染しやすくなる。
3. 骨盤の炎症、ファロピオ管の感染症で、病気や不妊を引き起こす。
4. 不妊症。
5. 子宮ガン
6. うつ病
7. 乳ガン
8. 血液凝固



9. ピル使用中に受精した子どもに誕生時の欠陥
きやしゃな胸
10. 発作
11. 体重の増加
12. エイズを含む性病に効力はなし。
- 13.

ベストの選択はどれ？

ピルはまったく危険が伴わないから大丈夫だと言っている人もいるだろう。しかし、それを信じてはいけません！ピルに頼ってはいけません。あなたの身体に危険を及ぼすかもしれない。また、あなたの知らないうちにおなかの中の子どもも殺してしまうかもしれない。

独身の人のとつては、自制することが何よりの選択である。必ずしも容易なことではないが、必ず報われるだろう。セックスを自制することで、妊娠や性病の可能性を排除することができる。

既婚者であれば、自分の配偶者に忠実であること。じつくりと自然の方法を身につければ、自分の身体の仕組みや働きを正しく理解することができるだろう。自然の方法なら、危険を伴う化学物質もないし、生まれてくる子どもの命を脅かすこともないのである。

自分を大切にしよう。ピルは使ってはならない。

高校での中絶の扱い方

女子高校生に中絶手術の実態を話すべきかどうかという問題について、おそらくプロライフの親や教師は、話すべきだと考えるでしょう。ではその際、さまざまな成長過程の胎児のカラー写真やスライドを見せるべきでしょうか？そして、さらに議論のあるところですが、中絶された胎児の写真を見せるべきでしょうか？

この点になると、我々大人の側に異論が出てきます。数少ない例外を除いて、親は写真を見せることに賛成しますが、多くの教師が反対するのです。写真を使う方法が最善であることは、彼らも理解しています。また、それを生徒たちが決して忘れないこともわかっています。写真は、生徒の心にもいつまでも残ります。それを見ることで、生徒は、胎児は受胎の瞬間から赤ん坊で、中絶はその赤ん坊を殺すことであると認識するのです。写真を使う教育に、これらの効果があるということは教師たちも理解しています。彼らにとつて問題なのは、むしろそれだけ効果的

「ピルの真実を知ろう」

ピルを解禁して40年以上になる英国でピルによる影響を長年研究してきたマーガレット・ホワイト博士が心からのメッセージを日本人に向けて叫んでいます。

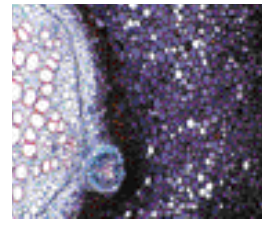
日本へのメッセージ
新聞・雑誌・放送全てのメディア

率は決して0.1%ではなく米国での実数は5%以上です。若者のフリーセックスを助長する側面と合わせ、米国の中絶届出件数は人口比日本の2倍以上でピル解禁は決して中絶減少にはなりません。ピルの作用についても真実を伝えたいのはなぜでしょうか？ピルの作用は排卵抑制だけではなく、正しく服用しても何%かに排卵があり受精しています。しかし、ピルは子宮内膜を変質させるため受精卵が着床できず流れてしまうのです。受精した瞬間からヒトのいのちが始まると考える人達はたくさんおられます。各自の判断でピルの服用を決めれば良いと言いつつ、なぜこれ程重大な情報を隠すのでしょうか？またピルこそ最大の環境ホルモン物質とも言えます。卵巣から毎月排卵

マーガレット・ホワイト医学博士（イギリス）

お願いします。日本の皆さん
欧米の私達を見て下さい。
私達は若い人達の人生をメチャメチャに
してしまいました。
彼等の健康・生殖機能みんな
ピルの影響を受けています。
ピルの影響は結婚生活にも及び
離婚や私生児の出生も増えました。
全てがピルで悪くなっています。
どうか欧米のマネをしないで
日本独自の文化を守って下さい。
私達のあやまちをくり返さないで下さい。
お願いします。

においてピルについての報道ほど異常なもの他にありません。実際にはあり得ない数字が真実のように伝えられる一方で欧米で起こっている多数の死亡例など全く報道しようとしません。ピル服用者の妊娠ともいえず、卵巣から毎月排卵



用は排卵抑制だけではなく、正しく服用しても何%かに排卵があり受精しています。しかし、ピルは子宮内膜を変質させるため受精卵が着床できず流れてしまうのです。受精した瞬間からヒトのいのちが始まると考える人達はたくさんおられます。各自の判断でピルの服用を決めれば良いと言いつつ、なぜこれ程重大な情報を隠すのでしょうか？またピルこそ最大の環境ホルモン物質とも言えます。卵巣から毎月排卵

される卵は毎月形成されるのではなく、卵母細胞として子どもの時から多数貯蔵されています。一度でもピルを服用すれば環境ホルモンレベルで超高濃度の合成女性ホルモンに卵母細胞は暴露されてしまうのです。ピルを止めてから妊娠してもその卵は過去に卵母細胞の状態です。毎日毎日何年間も超高濃度の合成女性ホルモンの影響を受けていたわけです。40年以上前には以上のことはまだ十分分かっていなかったため、欧米で解禁されてしまったとも言えるのです。今この時点で日本が解禁したことは本当に愚かと言えるのではないのでしょうか。女性のみならずに死にいたる副作用の危険を負わせ、他の避妊法と異なり妊娠した時は服用ミスとされ100%女性のみ責任にされるピル程女性の尊厳を損なうものはないのです。

平田国夫

(2ページから)

あるということなのです。では、そういう教師はみな中絶に賛成しているのでしょうか？必ずしもそうではありません。では、何が問題なのでしょう。それは、クラスの中にすでに中絶経験を持つ生徒がいることなのです。彼女たちに写真を見せれば、自分のしたこと、つまり赤ん坊を殺したことを知り、動揺したり泣き出したり、時にはヒステリックになったりするでしょう。教師は彼女たちを動揺させたくないのです。

このような教師の懸念に、我々はどう対処すればよいのでしょうか？

確かに、そのような授業は何かの生徒を動揺させるでしょうが、彼女らは周囲が彼女を支援してくれる環境であれば、問題を解決することができます。しかし、このような授業を受けなければ、将来中絶をすることになる生徒がクラスにあと五人は出てくることでしょう。もしスライドによる詳細な情報を得られれば、あえて中絶することはないはずです。ですから、やはりすべての情報を男子生徒にも女子生徒にも与えるべきなのです。中絶後遺症候群という新しい医学知識も得られた今日では、生徒たちに人生の真実を教えなければなりません。また、中絶に

よって心理的なトラウマを受けたことを否定したり抑圧したりしても、いつまでも自分の心を偽ることはできないのです。ほとんどの人が、自分の子どもを殺したという事実に向き合えず、苦しみます。そうした後に初めて、彼女らは心の平和を得るのであり、それは早ければ早いほどいいのです。

そうであれば、教師たちが手助けしたり相談にのって対処法を教えることのできる生徒のうちに、問題意識を持たせるのが一番ではないでしょうか？そのため、私たちはすべての高校生に写真を見せるべきであり、それも早ければ早いほど良いと考えています。

ノボット・ジェリー、o.m.b.i

避妊がもたらしたもの

私達は、どうして避妊メンタリティーを受け入れるようになってしまったのでしょうか？

以下にそのずるく、組織的で、よく練られた導入の過程を提示しましょう。

第一段階・セックスがキンゼーの主張に則って抑制されることが不可能で、また抑制されてならない快楽の手段として推進されました。それから、禁欲が徳ではなく、「自己表現」にとつての障害であるとされるようになります。

ここから邪淫、姦淫、同性愛、その他の性に関する一連の罪が現代世界に広まりました。

第二段階・この段階で結婚にある絆の側面と生殖の側面を分離しました。夫婦の交わりが生殖につながらなくてもよく、ひたすらに快楽の目的のためであつてもいいのだと説かれました。ここから避妊薬使用が当然視されるようになります。女性

がもはや先のことを考えようとしない無責任な男性から使用され、捨てられることも可能になりました。不幸なことに、フェミニスト団体を含む多くの女性た

ちはフリー・セックス、避妊、なかんづく妊娠、中絶に対する態度の変化に対しては責任があります。

第三段階・それは結婚行為を婚姻の秘蹟から分離し、フリー・セックスを奨励しました。これがさらに性的放縱、姦淫、同性愛、その他を拡散させました。

第四段階・子どもたちが不要で、偶発的な性的放縱の副産物に成り下がりました。そこから、よくあることですが、避妊が失敗すれば中絶をしたり、子どもが産まれる前であろうが後であろうが子どもを殺す決断を女性はいとも簡単にするようになりました。

今日、子殺しの一形態である妊娠中絶は、選択肢の一つとして座を占めるようになりました。よく耳にするのは「妊娠中絶よりも人工避妊を」というスロガンです。どの国でも積極的に避妊を導入すれば、人々の避妊メンタリティーが中絶メンタリティーに移行するなどとだれも考え及びませんでした。妊娠中絶の合法化は避妊の高い失敗率を有効にフオーする手段とし

て正当化されています。

あの悪名高い一九七三年一月二十二日の合衆国最高裁ロー対ウエイド判決以来、二千五百万以上の幼い生命が闇に葬られています。現在、米国では毎年百五十万人の赤ちゃんが中絶されていると推定されます。これは二十一秒ごとに一人の赤ちゃんが中絶されることになりました。全世界での妊娠中絶は毎年約四千万件になります。これらの妊娠中絶は実際に請求があれば妊娠のどの段階であっても実施されます。それだけではありません。妊娠中絶が合法化されている国では安楽死の合法化もそれほど先の話ではありません。死の文化のサイクルはこのように完結します。

避妊メンタリティーは、なぜ母親、父親、祖父母が自分たちの赤ちゃんを殺したがるか説明になりません。夫婦行為にある生殖の側面が忘れ去られると、子どもは事故、性的放縱の副産物になります。子どもたちはもはや基本的な人権を備えた人格であると考えられなくなり、ちょうど車とか住宅のように捨ててもい

デンマークの記念碑

い物になります。子どもたちが物のように取り扱われるのであれば、彼らの保護者とか両親は子どもたちの感情とか福祉などは一考もせず、好きなように処分できるようにになります。子どもたちが「神からの賜物」であるとか「神の似姿に造られた」ことなどは都合が悪いので、すぐに忘れ去られてしまします。

医学博士 アンヘリーター・アギール

デンマークのプロライフ・グループが中絶された50万もの胎児に捧げる記念碑を作成した。この犠牲者の数は、25年前にデンマークで中絶が合法化されて以来の数字である。

記念碑は、デンマークの首都コペンハーゲンより西140マイルにあるベダソという村の、中絶で命を絶たれた胎児のための記念公園の入り口に設置される予定である。

石碑には、中絶によって命を奪われた50万のデンマーク市民に捧げる哀悼の文句が刻まれている。

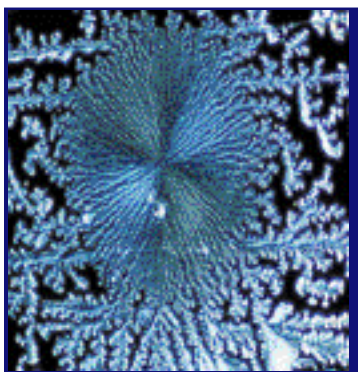
デンマークのルター派教会の牧師、オルラ・ヴィルカー師が、この記念公園設立の指揮をとつてお

り、公園のためにおよそ1600平方メートルの敷地を、彼自身が組織している団体、ライト・トゥ・ライフ（生きる権利）の名義で借りようとしている。

デンマークでは、中絶はさほど大きな問題として取り沙汰されていない。だが、この記念公園の設立計画を耳にした別のルター派の牧師が異議を唱え始めた。

石碑はベダソのルター派教会にほど近い場所で公開されたのだが、その教会の牧師であるカート・ニールセン師は、記念式典に出席しなかった。地元司教のニールス・ホーム師は、公園は「悪趣味」だと評した。

一九七三年十月にデンマークで合法となった中絶法では、妊娠12週目までの中絶が許可されている。政府の報告によると、全妊娠女性の約20パーセントにあたる18,000件ほどが、人口約五百二十万の国で毎年の中絶されているという。



プロライフ・インフォネット

RU 486の効果

RU 486の効果について、誤った考えを持たないでほしいと思います。この薬は、成長過程にある人間を殺すのです。胎児にどんな非人間的な名称を付けようとも、胎児はやはり人間なのです。どんなに最新の素晴らしい技術が生み出されようと、何の罪もない小さな命が殺されるという事実が変わりはありません。

RU 486は、女性の性ホルモンであるプロゲステロンの働きを無くすことで、中絶を起こします。プロゲステロンがなければ、子宮内膜ははがれて出血し始め、胎児がそこで生き長らえることができません。そして最終的には女性の体内から排出され、胎児は死にます。

この薬の発明者であるエティエンヌ・エミール・バリューは、自身のことを人道主義者であり、世界中の女性の味方であると言っています。彼の著書『人工流産薬』には、自分の発明に対する彼の狂喜ぶりが記されています。「この薬には二つの大きな効果が期待できた。一つは、女性の健康を損なうことなしに家族計画が進められること、もう一つは、人

類にとって圧倒的な脅威となっている過剰人口の問題を解決する手助けになるということである。」つまりバリュー氏は、RU 486によって、女性が自分の身体と子どもに対してより強力なコントロール能力を持つことができ、それが結果として人口問題を解決する手段になる、という信念に誇りを持っているということなのです。

バリュー氏は著書の中で、全編を通じてこのような高尚なレトリックを用いています。自らの発明した薬がもたらす恐ろしい結果に目をつぶっているために、その論理には致命的欠陥があります。彼は、RU 486が「死の薬」で、胎児を殺すことを目的に作られたものであるという事実を無視しています。世界中の墮胎医と同様、彼も婉曲語法を用いて、自分自身と読者の目を醜い現実からそらしているのです。RU 486が一九八五年に発表された際、マスコミは、「人工流産薬」という造語を造りましたが、バリュー氏自身は「避妊薬」と呼んでいます。そしてこの薬の効用が、「中絶」ではなく、「避妊」にあるとしていま

す（が、実際これは中絶のための薬なのです。中絶とは妊娠の異常な形の結末なのですから）。胎児を「嚢胞」という医学用語で呼ぶことで、薬が殺すのは人間ではない、取るに足らない存在であるという便宜上のうそを、自分自身についているのです。

RU 486の使用による副作用は数多く、それらについては詳細な報告がなされています。副作用は頻繁に起こるため、使用を検討している女性は十分な注意が必要で、強い腹痛や出血、下痢、頭痛、発疹、吐き気、嘔吐などがその副作用としてあげられています。

こういつた身体上の副作用と同様に、精神的な副作用も多く起こります。RU 486を用いた中絶では、母親自身が子どもを殺すのに直接手を下すことになり、胎児を処分していたのですが、それに比べるとRU 486の使用は母親自身が手を下したという事実を認めざるを得ません。RU 486による中絶は、それを使用する女性だけが、胎児の死を最初から予期しているわけです。このことは、女性のその後の人生に大きな影響を及ぼすでしょう。

私たちはRU 486の使用を認めてはなりません。この人工妊娠中絶薬が一般に使用されるようになれば、中絶はつなぎ上りに増

選択権：事前に対処できないのか？

著者は、正しく完全に理解された言葉としての「選ぶ権利賛成者」である。「選ぶ権利賛成者」の本場に正しい使い方は、いかなる政府も国家も、私達の自由な選択を無理じいできないとする事である。

個人は政府を選ぶのに自由であるべきである。社会の問題に意見するか黙っているか選ぶのも自由である。菜食主義になるかならないか選ぶ自由がある。土地の所有者になるか貸借者になるか選ぶのも自由である…。

えるでしょう。RU 486が認められれば、プロ・チョイスの人々は、予定外の妊娠にも慌てず騒がず、これを飲みさえすれば簡単に「完璧な中絶」ができる、ほめたたえ、宣伝するでしょう。世の中の倫理がすでに相当緩んでいることから見て、この薬の導入がすなわち密かに処理される子どもたちへの死の宣告になることは間違いありません。RU 486の「効用」に惑わされず、その本当の目的が胎児を殺すことにあることを私たちは忘れてはなりません。

と例を上げればきりが無い。選択する自由というのは立法者から交付されるものではなく、神から与えられた奪うことのできない権利なのである。

ところが一般的に使っているうちに、「選ぶ権利賛成者」という言葉は、女性が中絶するかしないか選べる事という意味に狭められてしまっている。

きつと私達が物事をはっきり話さないからこのような限られた意味を作ってしまったのである。「中絶反対」や「中絶賛成」という言葉を使うのにあきてしまったからといって、問題そのものをあいまいな言葉でごまかしてしまうのはどうだろうか？自分の考えが正確に伝わる言葉を使うようにしよう。相手に影響を与えたいと思うなら、明確な言葉を使おう！

でも、選択する、というのは「好きな事ややりたい事をする」という意味ではない。もし私達が道理にかなった責任の重い選択をするとなれば、道徳や倫理観念に導かれなければならない。私達の選択は、私達の考え、行

動や発言と同じように、良いものもあり、悪いものもある。キリストの教えや道徳神学者の導き、教会の伝統や教義、良い民法、これ等全部が良心と良い人生観を私達の中に作り出すのである。

道徳的選択に目を向けよう

言葉の使用についての短い説明が終わったので、論争となっている問題、中絶の問題に戻る事にしよう！おばあちゃんが社会にとつてもう「生産的」でないからといって殺してしまおうと主張する人はいないように、正しい心を持った人間なら、生まれる前の胎児を殺したいとは思わない。

中絶反対の話し合いでは、ほとんどの場合、胎児しか重要視していない。何故同じだけの努力や熱い議論を、考慮と懸命な働きを、その問題の根底に向けないのだろうか。私達はまるで、馬が盗まれてしまった後になつて一生懸命時間をかけて家畜小屋の錠をかけているかのように見える。私達は生まれる前の胎児の熱烈な支持者である。しかし、その「生まれる前の望まれない胎児」を宿している「生まれてくる」者達に、私達はどんな教育をしているのだろうか？



つまり、もし一年間に多くの中絶が行われたとしたら、それと同じだけの数の女性が、自分の行動がどういう事であるか考えるべきであった、という事なのだ！

確かに若者達は、強い好奇の目や社会的プレッシャーに苦しむかもしれない。しかし、それと負けずに戦うようにと、家庭で例を示しながら教えるべきではないのだろうか？ このような望まれない妊娠の「犠牲者達」への家庭の役割や宗教的教えはどうなっているだろうか？年間沢山の赤ちゃんを私達が殺しているとするれば、それは家庭の役割について何か示していないだろうか？「子ども達への最初の教師」としての義務として、親が果たしていない事については？

私達の社会の若者はどのような性教育を受けているだろうか？男の子や女の子の思春期が終わわりそうな頃になって、やっと性教育を始めるというのか？何故中絶という限った範囲にのみ圧力を与え、宗教的原理をもって教育する事を避けようとするのか？その身体を持つ神秘と力について、又その力がどんな場合にのみ許されるのかを、私達は子ども達に教え込むべきではないだろうか？何故すべての注意を妊娠だけに集中させ、妊娠する以前の個人を無視してしまうのだろうか？

[511] 赤ちゃん：最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬：ピル

| | | |
|-------|----------------|------------|
| 注文： | 1 - - - - - 5 | 1部 = ￥ 100 |
| | 6 - - - - - 20 | 1部 = ￥ 75 |
| フルカラー | 21 - - - 999 | 1部 = ￥ 50 |
| | 1000 - - 以上 | 1部 = ￥ 35 |

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

- [201] 生か死..... + 郵送料
- [202] 第二の処女..... + 郵送料
- [203] デート..... + 郵送料
- [204] どうするの？..... + 郵送料
- [205] "NO"という技術..... + 郵送料
- [206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
- [207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料
- [208] していましたか..... + 郵送料
- [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
- [210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
- [211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

- [301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
- [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
- [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
- [305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料
- [306] ミニソフィアAceエース(税別).....7980円 + 郵送料

【ビデオ+本・日本語】

- [401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
- [403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
- [404] いのちーおくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
- [407] 命美しいもの = one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
- [409] 聞こえる？天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
- [410] ビル先進国・英国からの警告...(VHS).....15000 + 郵送料
- [500] (本) 生命問題に関する...(カトリックの教え).....2987 + 郵送料
- [501] (本) 自然な家族計画...(ビリングス・メソッド).....1000 + 郵送料
- [503] (本) プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
- [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
- [505] (本) いのちをみつめて.....500 + 郵送料
- [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ).....650 + 郵送料
- [507] (本) 私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
- [508] (本) いのちの福音.....1500 + 郵送料
- [509] (本) 小さき生命のために.....1300 + 郵送料
- [511] (本) 赤ちゃん：最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
- [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
- [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
- [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
- [515] (本) 経口避妊薬：ピル.....100 + 郵送料
- [516] (本) いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料

パンフレット申し込は・・・

| | |
|-------------|----------|
| 1 ~ ~ 5 | 1部 = 35円 |
| 6 ~ ~ 100 | 1部 = 25円 |
| 101 ~ ~ 500 | 1部 = 20円 |
| 500 ~ ~ 以上 | 1部 = 15円 |

組み合わせは自由です

非人間的社会を 作るポルノ中毒

我々は性の充滿した文化の中に居る。我々はあらゆるさまざまな性を個々の家庭でのテレビの広告、番組、そして各種の映画、ポルノ、音楽番組の美しい画像を通して見る事が出来る。もしそれで不満足なら、ビデオテープでポルノ映画を見るとき選択も出来るのである。

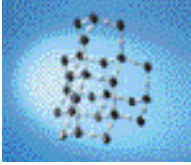
ポルノ雑誌はどうだろうか？随分長い間ちまたに出回っている。それは我々をうんざりさせ、胸を悪くし、人間性に欠けるのに広く読まれている。

こういう事すべての当事者は誰か？それは我々自身と我々の子ども達である。この性的刺激の止むことのない攻撃は、健康的な性を歪め、セックス中毒に導く可能性を持っている。

中毒の中心にあるのは幻想である。幻想とは内への没頭、逃避、現実からの後退だ。それは我々を现实生活から遠ざける。幻想は現実より美しい。幻想に勝るものはない。我々が望む通り、完璧なのである。幻想の一番悪い点は、それが現実になりうる、と我々が信じるよう、導かれていく事である。

絶妙な肢体のイメージや性の妙技、そして見た目の白熱した情熱のイメージを、何年もの間に植え込まれてしまった若い夫婦は、普通のセックスでは満足出来ない。何をしても十分でないのである。

片方のパートナー（大抵女性）は、自分が使われた、と感じ、傷付く。彼女の夫は自分の満足の為に、彼女をモノのように扱う。彼のセックスの考えや要求は、彼女の女性性としての特質や、セックスのパートナーとしてふさわしいかについての疑問を沸き上がらせてくるのである。最後には彼女は、夫がセックス



スという目的だけの為にセックスする、と考える様になる。そうなる
と結婚は苦痛である。
何組かのカップルは不満を持ち
始め、それぞれにとって、もっと口
マンティックで敏感に反応して

れる相手を思い描く様になる。今の相手に騙された、と感じる。これがすべて？だとしたら相手を間違えてしまった。「お互いの連れ合いでは、幻想に追い付けない、という事である。

セックスが中心の考えやセックス中毒は、結婚に誤った基準を持ち込み、性における問題、緊張、拒絶を引き起こす。むりなセックスは、親密になる事、良い人間関係、やりがいのある仕事、心の清らかさ、の代わりであり、人生の空虚感や欠如感の穴埋めなのである。それは日常にある緊張やブレッシャーからの即席な解放である。

ポルノは幻想をあおる。幻想はセックス願望に火を付け誇張する。幻想を思い浮かべる事ですらそんなに影響力を持つのなら、幻想を実行に移す事は究極をいく。ところが不幸な事に、我々の中のみならず、沢山の人が、この許されない幻想を実行してしまっている。その人達自身も周りの人達も、深く傷付けて。

幻想や、軽はずみなセックスや、親密でない者同士のセックスは、人との絆を作る力を奪ってしまう。セックスによる喜びを本当の良い人間関係からくる喜びと間違えているのである。そういう感情は長く続かない。見当違いなのである。

とても口マンティックで挑発的な映画は、単に劣情を誘発するだけである。身体が躍り出るシーンは我々の感覚を鈍くし、性の想像をたくまし、映画やベツトでやればやるほど、もっともっとと刺激を求めるようになる。愛し合いながら高められる刺激は、感情の親近感、その経験の特別さによって更に高められるのであって、快感の限度を広げる事によってではないのだ。大層な事をしなくても、多くが得られるのである。

ポルノや幻想は、考えを性中心にし、麻薬やアルコールの様に強い中毒を引き起こしてしまふ。これは過度の性欲を生み出す。それらは愛を殺してしまふ。この世の中は十分寂しいというのに。

セックス中毒は、罪の意識、自己嫌悪、強迫観念、空虚感、自己中心へとつながる事により、人を更に寂しいものになっている。良い人間関係も壊れてしまふ。今こそ我々の心の中にある、その道へ行かそうとしている部分に「ノー」と言う時なのである。

ヴァル・ファーマー

事務所便り

『つもった雪』

金子みすず

上の雪／さむかるな。
つめたい月がさしていて。
下の雪／重かるな。
何百人ものせていて。
中の雪／さみしがるな。
空も地面もみえないで。

高知県看護協会主催の母子保健フォーラムが開かれ、家族計画協会所長の北村邦夫医師と大が同期とかで、彼の資料から十代の妊娠中絶の現状を話された高知県健康対策課長の田上豊資氏は今年取られようとしている対策は決して、中絶対策キャンペーン（中絶＝命を奪つこと）にはせず、女性がトラウマを担わないためにと言って、英国の避妊の選び方の良さは各々の世代に応じた選び方になっていて、20代は76%ピルを使用していること。モーニング・アフター・ピルにまで話がおよび、ピルの避妊の失敗は0.1%とアメリカの資料をスクリーンに大きく写し出されました。

家族計画協会はピルを広めようと躍りになっているから、皆様の住む町でもこのような間違った数字が大胆にも述べられるときがあるかもしれません。平田国夫医師からは0.1%ではなく、5%と教えて頂いている私達はこれからはこのような場合には積極的に参加して、皆の前で、今はその数値ではないことを伝えていかなければ、大勢の知らない人々は騙されてしまいますものね。勇気を出しましょう！

中の雪にまでまなざしを注いだ金子みすずさん。私達の社会も今生きている人々だけではなく、目には見えない小さい人々にも優しいまなざしを注げるようになるのはいつのことでしょうか。

日本プロ・ライフ・ムーブメント